

手塚 聡

地方の「熱い想い」を胸に

初めての地で

現在、私は大分県庁職員として働いています。総務省では、地方自治分野に携わる職員は、若手のうちに地方自治体に勤務する機会が与えられています。地方自治を所管する総務省職員にとって、まさに「現場」とも言える地方自治体での勤務は、重要な仕事の一つです。

大分県は温泉の源泉数、湧出量ともに日本一で、別府湾に面する別府温泉、県中央部に位置する湯布院温泉等全国的に知名度の高い温泉地が多いのが特徴です。

私は今回初めて大分県の地に足を踏み入れましたが、日々の生活、仕事、新鮮な食材、県内無数の温泉地等全てが新鮮で、新しい発見の毎日です。

市町村の「熱意」を肌で感じて

大分県庁では、市町村振興課という市町村の行政、財政及び税政に関することや、選挙に関する業務等を行う課に所属しています。

その中でも、私は財政の分野を担当しています。市町村の起債に関する相談や受付、国からの補助金に対する市町村への配分作業、市町村の第三セクター等の経営状況についての集計作業や運営についての相談、市町村の決算状況についての集計作業等、内容は多岐に渡ります。

業務を遂行していく上で、市町村職員との協議や、実際に現場に赴いて話を聞く機会が多々ありますが、地域を良くしていきたいという市町村の熱意を肌で感じることができ、とても貴重な経験となっています。

市町村によって地域の問題や財政事情は様々です。そういった問題に対して県としてしっかり状況を把握し、市町村のために何ができるかということを常に考えなければなりません。自分が今まさにやっていることが、市町村の住民の生活に直結する業務であることを考えると、責任の重さを実感しますし、同時に自分の仕事にやりがいを感じています。

「地方を元気に」は合言葉

総務省職員は各地での経験を国の施策に生かすため、それぞれの場で日々奮闘しています。同僚と飲み会に行けば、自分の人事交流先の地方自慢、故郷自慢の話で盛り上がります。総務省は国の立場にいらながらも、常に「地方を元気にしたい」という熱い想いを持った方々の集まりです。

ぜひ一度、地方の「熱い想い」を聞きに総務省に訪れてみてください。地方の思い出を熱く語ってくれる職員が、あなたを迎えてくれるはずです！

PROFILE

- 平成21年10月 総務省採用
自治財政局財政課総務室
- 平成22年1月 自治行政局選挙部
政治資金課収支公開室
- 平成23年4月 自治税務局
固定資産税課
- 平成23年10月 現職

とある一週間

- 月曜日** 市町村から提出された起債要望書と計画書を入念にチェック。内容を詳細に把握するため、担当職員と直接協議するアポを取り付ける。
- 火曜日** チェックした書類について、上司に内容を確認してもらい、指摘を受ける。もう一度入念に書類をチェック。
- 水曜日** 先日アポを取った担当職員と起債計画について協議を行う。事業内容等について説明を受け、更に自治体の現状等電話では聞けないような話も聞くことができた。
- 木曜日** 協議した内容を報告書にまとめ、上司に内容を確認してもらい、班員にも回覧。市町村の財政状況について班員と議論を交わすこともあれば。
- 金曜日** 提出された起債要望書と計画書をとりとまとめ、照会先に提出。業務終了後は職場の皆と飲み会へ。
- 土・日曜日** 県庁バスケット部の練習後、皆で温泉へ。県内の温泉巡りが週末の楽しみの一つです。



職場皆さんと県内旅行にて(竹田市)(筆者右から1人目)